

景気景況調査報告

(第18回)

令和2年 4～6月期 実績

令和2年 7～9月期 見通し

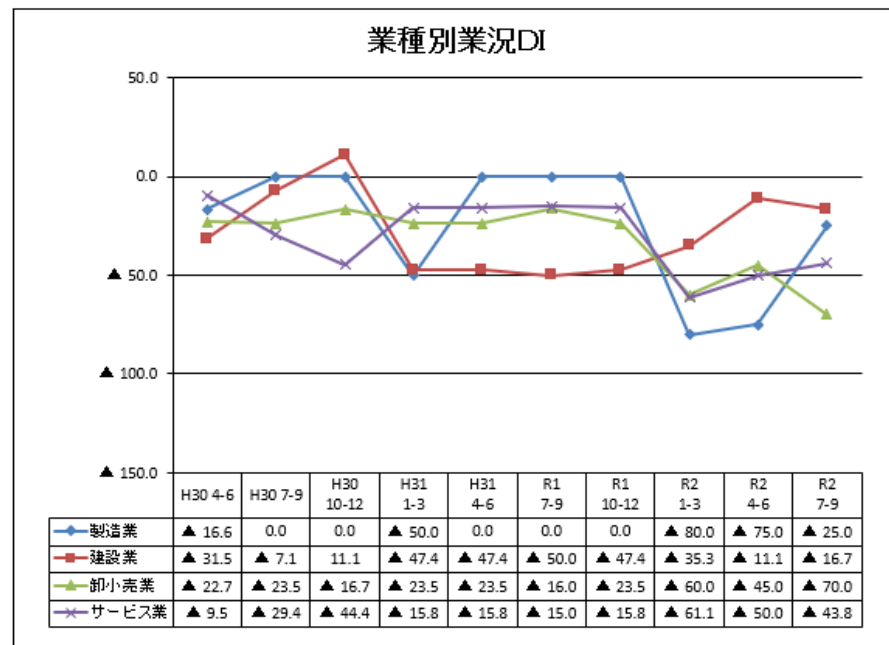
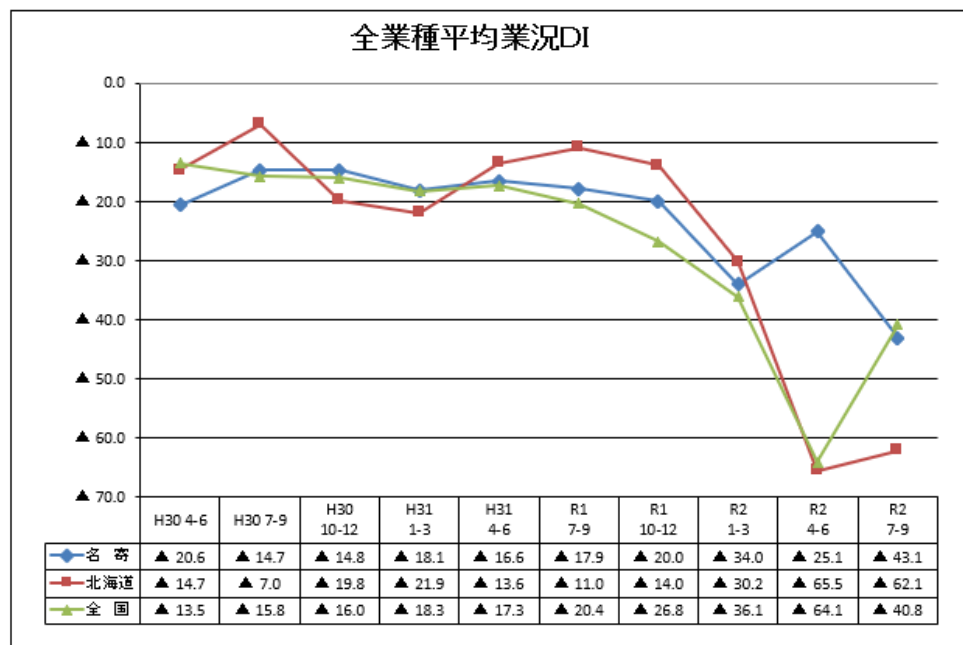
令和2年8月

名寄商工会議所

I 調査要領

- ①調査対象期間 令和2年4～6月期の実績及び令和2年7～9月期の見通し
- ②調査内容 製造業、建設業、卸小売業、サービス業の4業種に分類し、売上高、採算、仕入、従業員、業況、資金繰りの6項目について調査を実施。
- ③調査対象 当所会員企業（FAXで協力願ひ） 58社

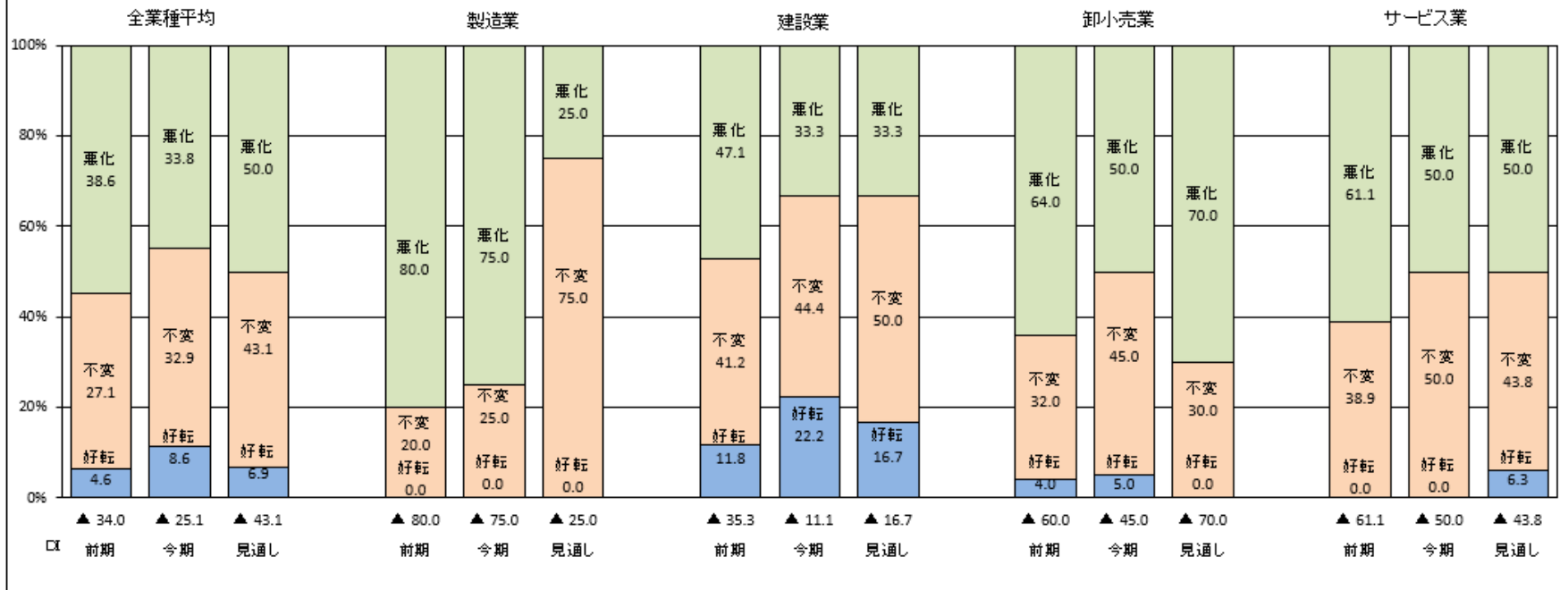
II 調査結果



※DI：「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- ・今期、全業種平均で▲25.1ポイントと前回調査と比べ8.9ポイント好転となっている。
- ・北海道（道商連調査）の景気と比較すると、今期40.4ポイント良く、見通しでも19.0ポイント良く回復傾向にあると思われる。
- ・全国（日商調査）の景気と比較しても、今期39.0ポイント良いが、見通しでは▲2.3ポイントマイナス幅が拡大する見込みとなっている。
- ・見通しでは▲18.0ポイント悪化しており、未だに新型コロナウイルスの影響による要因が大きく、人材不足・工事の減少・イベントや行事の中止原油価格変動との回答が多数あり。
- ・業種別の見通しでは、製造業で前期より大きく好転となっているが、卸小売業は▲25.0ポイント悪化となっている。

業種別業況回答割合

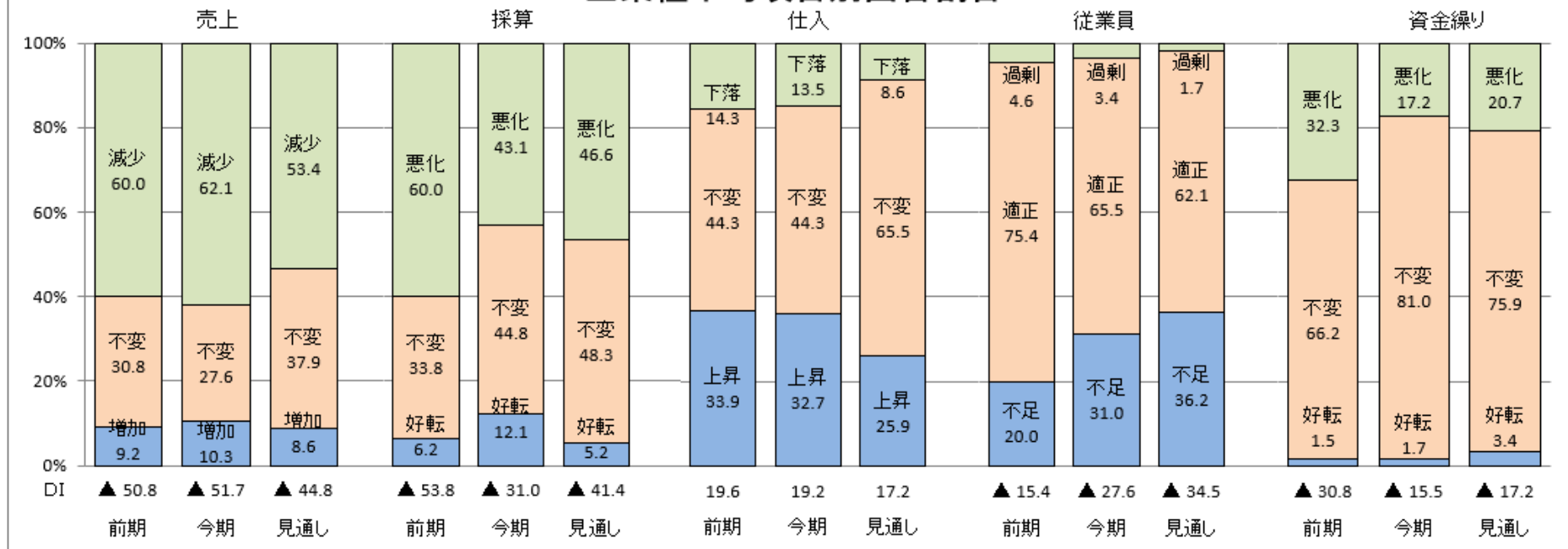


※D I : 「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- 製造業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が5%減少しており、前期と同じで「好転」の回答がなくなっている。見通しでも今期と同じで好転が見込めない状況となっている。
- 建設業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が13.8%減少しており、「好転」が10.4%増加している。見通しでは「悪化」が横ばいとなっているが、「好転」が5.5%減少している。
- 卸小売業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が14.0%減少しているが、見通しでは「好転」の回答がなくなり、「悪化」では20.0%増加となっており、さらに厳しい状況となっている。
- サービス業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が11.1%と減少しており、前期と同じで「好転」の回答がなくなっている。見通しでは「好転」が6.3%増加となっている。

全業種平均では、今期は前期より「悪化」4.8%減少、「好転」が4%増加となっているが、見通しでは「悪化」16.2%増加となっており、「好転」回答が1.7%減少しているため、さらに悪化する見通しとなっている。

全業種平均項目別回答割合



売上 DI

[減少の要因]

[増加の要因]

今期▲51.7ポイントと前期より0.9ポイント増加となっている。見通しでは▲6.9ポイント増加となっている。

・新型コロナウイルスの影響 ・工事の減少 ・除排雪の減少 ・品物入荷遅れ ・イベントや行事の中止

・名寄市補助金支援 ・公共工事の増加 ・新規顧客契約

採算 DI

[増加の要因]

今期▲31.0ポイントと前期より22.8ポイント増加となっている。見通しでは▲10.4ポイントマイナスとなっている。

・名寄市補助金支援 ・コスト削減 ・売上高増加

仕入 DI

[下落の要因]

今期19.2ポイントと前期より0.4ポイント減少。見通しでは▲2.0ポイントマイナスとなっている。

・運賃値上げ ・消費税増税 ・工事の減少 ・人件費 ・原油価格変動

従業員 DI

[不足の要因]

今期▲27.6ポイントと前期よりも12.2ポイント増加となっている。見通しでも5.2ポイント増加となっている。

・人材不足 ・社員の転職 ・業務拡大による

資金繰り DI

今期▲15.5ポイントと前期から15.3ポイント増加となっているが、見通しでは▲1.7ポイントマイナスとなっているため厳しい状況が続いている。